



高得点より好得点

この時期、中3生はまだまだ得点の伸びる理科・社会を中心にラストスパートをかけています。2/4には千葉学習塾協同組合の先生方と一緒に作り上げた理社予想問題の配付と解説を行います。例年的中率の高さを誇っていますが、今年はさらにページ数を増やしました。入試直前はこれだけをやり切れば大丈夫です。また、1/30には公立高校入試の過去問実物コピーを使って時間配分の練習をしました。通常の統一テストとは違い、その場で採点して結果を渡すことにしていますが、その際にそれぞれの受験生について気が付いたことを話すようにしています。そこで、共通して言えることをもう一度ここでアドバイスしておきたいのです。これは、来年は受験生となる中2生にも心にとめておいてほしいことです。

まずは当たり前のことですが、実際の入試で提出してしまった答案に「待った」も「やり直し」もきかないのです。採点している途中で「ここは本当はわかっていたのに早合点したな」と思う答案が度々出てきます。返却する時には本人も気づいていて言い訳をするのですが、入試では得点にしてくれません。当たり前です。ではなぜこの時期になってもまだそんなことが起きてしまうのでしょうか。「間違えたらどうしよう」という焦りと不安があるのと同時に「何とかなるだろう」という甘い見通しがまだ心の奥に残っていませんか。これらを克服するには質の高い、真剣な反復練習しかありません。まだ時間は残されています。

次に言いたいのは、得点力の差についてです。理解し身についたことは同じくらいなのに点数が違うのは、アウトプットの力の差です。何を質問されていて、どれを手掛かりにし、どう答えればよいのかを一つひとつ確実に実行できるかが分かれ目です。

最後に、全体を見渡す習慣についてです。入試で満点を取る必要はないのに、まだ“絶対に落とせない問題”と“スルーしてもいい問題”との見極めがあいまいな人がいます。自分にとって必要な“好得点”を確実に取れることを目指しましょう！